

生活



IgA腎症

三年ほど前から、会社の健康診断で血尿を指摘されています。病院で再検査をしたところ、診断は「IgA腎(じん)症」。薬を服用し、月一回のペースで通院していますが、血尿は続いています。このまま治らないのでしょうか。妊娠・出産は可能ですか。

(26歳・女性)

「あまり聞き慣れない病名ですが、見つかるケースがほとんどです。人によっては経過中に、高血圧や

「慢性腎炎の一種ですね。慢性腎炎は腎臓組織の病変の違いによってさまざまな病型があります。また、中でも最も多いのがIgA腎症で、若い人に多い腎臓病といえます。全体の三、四割を占めるといわれています。IgAとは、病原体などから体を守る抗体のことです。タンパク質の一種です。IgA腎症は、尿のろ過装置である腎臓の糸球体の毛細血管を囲む支持組織に、免疫反応によってできたIgAの複合体がたまって書を起こしている状態です」

「慢性腎炎の一つですから、血尿やタンパク尿が一年以上にわたって続いていること、さらに血液中のIgA値が高いことが分かれば、可能性は80%以上になりますね。またIgA腎症は、腎臓の組織から見た病型の一つですが、診断を確定させるには、腎臓の組織の一部を採取して顕微鏡で調べる腎生検が欠かせません」

「ほとんどの人はないようですね。血尿とタンパク尿が主な症状ですが、気付かないうちに発症し、自覚がないまま進行していくことが多いのです。そのため職場の健康診断や学校の検尿などで、偶然「慢性腎炎で問題なのは、徐々に

山下 晴夫さん

県立中央病院 部長



腎不全への進行抑制が重要 妊娠・出産には十分な検査を

「安全な場合とそうでない場合がありますから、一概に判断できません。妊娠時には健康な人でも、腎機能が通常の1.5倍くらい必要になりますから、初めから余力のあまりない人は危険があります。しかし、注意してきちんと管理すれば出産も可能ですし、妊娠が原因で腎炎が悪化することもありません。腎炎の患者さんで出産した例もたくさんあります。一般的に腎機能が70%以上あり、腎炎の活動性が落ち着いた状態であれば、たいしては大丈夫とされていますので、よく調べてもらってください。」

「病気が進行して腎臓の機能も低下し、最終的に腎不全となってしまう場合があることです。そのため治療は、食事療法と薬物療法で、病気の進行を遅らせることが目標になります。食事療法は特に大切で、タンパク質、塩分、水分の摂取量をコントロールします。血液の中の老廃物の量を減らし、腎臓の負担を軽くするためには、タンパク質の制限が必要です。高血圧やむくみを抑えるためには塩分を制限します」

「薬物療法は、」

「現在は、症状を抑える対症療法が中心です。高血圧に対して降圧剤を投与したり、むくみがあれば利尿剤で尿の排せつを促します。糸球体内で血液が固まると腎炎の進行を速めると考えられていることから、血液凝固を抑制する抗血小板薬を用いることもあります。また、腎生検で糸球体の急性活動性病変が見つかった時は、副

医療・健康に関する質問を受け付けています。病名や詳しい症状、聞きたいポイント、住所、氏名、年齢、職業を明記して〒400-8515 甲府市北口2の6の10、山梨日日新聞社生活部「ドクター出番です」係まで。紙上匿名。

メディカル ポテラス

「慢性腎臓病」とは どんな病気？

腎臓の病気で「慢性腎臓病(CKD)」というものがあると聞きました。あまり耳慣れない病名ですが、腎不全や腎炎とは違うのですか？

回答者

山梨県立中央病院
山下 晴夫 院長



やました・はるおさん 1973年東京大学医学部卒。山梨県立中央病院主任医長、副院長などを経て、2007年より院長。山梨透析研究会会長。日本腎臓病学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医。

慢性腎臓病とは。

慢性腎臓病は米国から始まった考え方で、慢性腎不全や慢性腎炎を含め幅広くとらえています。微量の尿タンパクが出てい(陽性)などの腎疾患の存在を示す所見か、わずかな腎機能低下が三カ月以上続いている状態をいい、ほっておくと、慢性腎不全に進んでしまえばかりでなく、脳卒中や心筋梗塞(こうそく)など心血管合併症を起す可能性が高いことが分かっています。

米国が発祥の考え方なので

以前から高血圧でわずかな尿タンパクが出ている人の多くが心血管合併症を起しやすいためとは知られていましたが、米国で尿タンパクや腎機能低下の患者を調べたところ、心血管合併

症を高頻度で起こしていることが分かりました。

自覚症状はありませんか。

腎機能が低下が続く状態

心血管合併症の危険大

自覚症状がないので気付いたら人工透析が必要だった、または心血管合併症が発症した、ということになりかねません。腎機能低下は、通常の健康診断で行う血液検査でクレアチニン値を見れば分かりますし、尿タンパクも一般的な尿検査で調べられますので、定期的に健康診断を受けることをお勧めします。

クレアチニン値は年齢や性別、筋肉量などによって個人差がありますが、それから計算した腎機能が60%以下だと機能が低下を治療することは、慢性腎不全

筋肉量などによって個人差がありますが、それから計算した腎機能が60%以下だと機能が低下を治療することは、慢性腎不全

事実です。尿タンパクや腎機能低下の患者さんに注目し、これを治療することは、慢性腎不全

していると判断します。日本では腎機能低下の人の割合が多く、人口の10-20%に上ります。

に進むのを阻止するだけでなく、心血管合併症を起すのも予防できるということです。

なぜ慢性腎臓病だと心血管合併症が多いのですか。

予防・治療法は。まずは適切な腎臓病の治療と

腎臓病があると、高血圧や血管内皮障害を誘発し、動脈硬化が促進されると考えられています。実際、慢性腎不全で人工透析中の患者さんには心血管合併症が多いことは日本でも周知の

候群がある場合、合併症の発症

率が二-三倍に上がるといって、タもありませんので、生活習慣の改善も必要でしょう。具体的には食塩制限とカロリー制限と

まず

第1、第3木曜日に掲載し

MEMO

厚生労働省は腎疾患対策として、自治体や医療機関などに慢性腎臓病の啓発と予防・治療の普及を目的とした取り組みを行うことを呼び掛けている。同省の腎疾患対策検討会がまとめた報告書によると、患者数が極めて多く、潜在的な患者もいると推測されることから、自覚症状が出る前からの検査の重要性を国民に広く普及啓発することが重要としている。

〈医療・健康に関する質問募集〉

病名や具体的な症状、聞きたいポイント、住所、氏名、年齢、職業を明記し、郵便番号400-8515 甲府市北口2の6の10、山梨日日新聞社生活部「メディカルテラス」係まで。ファクスは055(231)3161。ホームページ「みるじゃん」の総合メール窓口内「メディカルテラス」でも受け付けます。http://www.sannichi.co.jp/ 紙上匿名。採用されない場合もあります。